

マンモグラフィにおける乳腺濃度通知に向けての取り組み

○加藤 千歩¹⁾、城戸 智子¹⁾、梶原 篤¹⁾、寺坂 利香¹⁾、福田 恵¹⁾、山泉 雅光¹⁾

¹⁾愛媛県厚生連健診センター

【背景・目的】

日本では、乳がんの罹患率・死亡率共に増加傾向にあり、現在 11 人に 1 人が乳がんにかかると言われており、早期に発見し治療を行えば、良好な経過が期待出来る。昨今、高濃度乳房が話題にあげられており、高濃度または不均一高濃度と判定された方に、正確な検査結果をお知らせ出来るよう新たな試みとして、平成 29 年度より乳腺濃度の通知を開始した。そこで今回当センターでは、平成29年度の1年間について、年代別に高濃度・不均一高濃度・乳腺散在・脂肪性の割合さらに要精検率について調べたので報告する。

【対象】

平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日の間に、当センターの施設内及び巡回検診を受診した女性 17,904 名を対象とした。

＜装置＞島津メディカル Sepio

読み取り装置：フジフィルムメディカル

PROFECTcs

フジフィルムメディカル AMULET

読影用モニター：Eizo 5Mモニター

【方法】

乳腺濃度通知に伴い、乳腺濃度の説明のパンフレット(図1)を作成し、施設内検診と一部の巡回検診で使用している。施設内では人間ドック受診後、結果表に受診者の乳腺タイプを印字し、医師または保健師によって説明を行っている。一部の巡回検診では、結果表に受診者の乳腺タイプを印字し、パンフレットを結果と同封している。

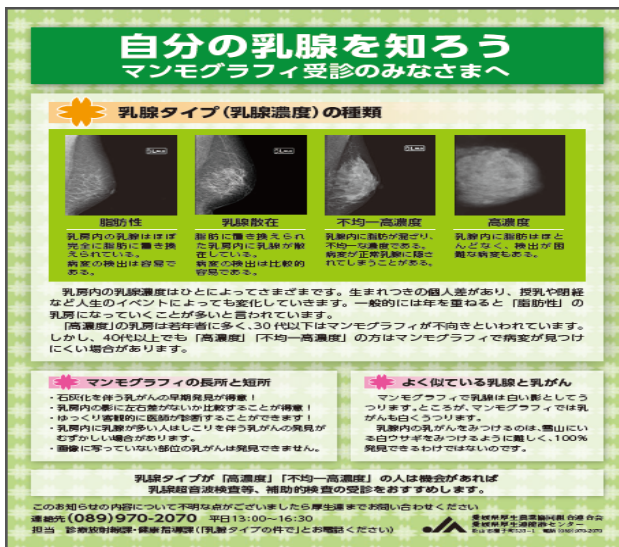


図1: 乳腺濃度の説明のパンフレット

【結果】

当センターの年代別に対する乳腺濃度の割合を図 2 に示す。年代が上がるごとに高濃度の割合が減少し、脂肪性の割合が増加していることが分かる。

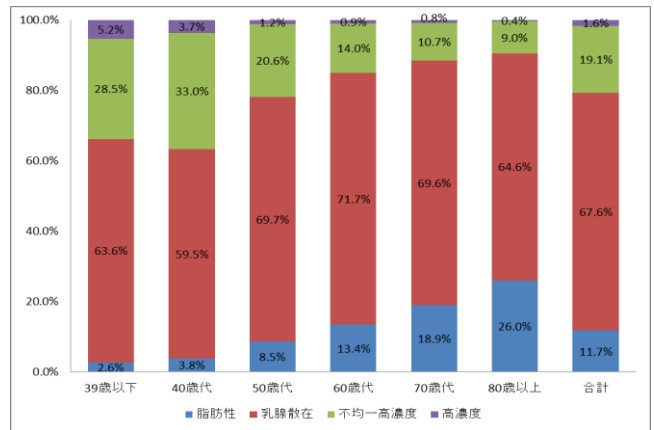


図2: 当センターの乳腺評価

年代別と乳腺濃度別に、当センターにおける要精検率の割合を表 1 に示す。どの年代においても、高濃度乳房(高濃度・不均一高濃度)の要精検率の割合が高いことがわかる。

	39歳以下	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	合計
高濃度	6.3% (1/16)	3.4% (5/148)	8.7% (4/46)	4.2% (2/48)	10.7% (3/28)	33.3% (1/3)	5.5% (16/289)
不均一高濃度	8.0% (7/87)	8.1% (108/1339)	6.3% (50/790)	5.9% (43/732)	4.6% (18/392)	4.1% (3/73)	6.7% (229/3413)
乳腺散在	2.1% (4/194)	5.8% (141/2411)	4.5% (121/2673)	4.0% (150/3749)	4.5% (115/2558)	2.9% (15/522)	4.5% (546/12107)
脂肪性	0.0% (0/8)	3.9% (6/155)	2.4% (8/328)	1.6% (11/698)	2.6% (18/696)	1.9% (4/210)	2.2% (47/2095)

表1: 当センターにおける要精検率

【結語】

平成 29 年度より乳腺濃度の通知を始めたが、問題として高濃度乳房(高濃度・不均一高濃度)の方への追加検査への体制が整っていないことがあげられる。高濃度乳房(高濃度・不均一高濃度)が珍しいことでもなくかつ異常でないことをきちんと知らせ、受診者が不安のない情報提供と検査に努めていきたい。

【参考文献】

1. デンスプレスト対策ワーキンググループ「対策型乳がん検診における「高濃度乳房」問題の対策に関する報告書」2017. 3.21